写真/橋元有理子文/中川瑠璃

SHIRAISHI farm 白石 真也さん



白石家の挑戦 亀岡の農業を

開拓

する、

備に約二十五年間携わった白石さんが、 に向日市から亀岡市へ移住しました。レーシングカーなどの自動車整 くん、長女の凛々子ちゃんの五人家族。新規就農を志し、二〇一七年 白石さん一家は真也さん、妻の暁子さん、長男の響くん、 けは何だったのでしょうか。 新天地で農業を始めたきっか 次男の瑛樹

はじまりは週末農園

なぜ亀岡市で就農しようと思ったのですか。

つ方と知り合ったことがきっかけです。 真也さん(以下、真):六年ほど前に友人を通じて、亀岡に農地を持

畑を借りて、「tera-coya農園」という、食の勉強会や野菜作りをする暁子さん(以下、暁):もともと私が「食」に関心があり、その方に グループを友人と作ったんです。初めは遊び感覚

てしまって。 でやっていたのですが、だんだんと夫の方がはまっ

意外と良い出来で。それにやっぱり… 初めは仕方なく手伝っていたのですが、これが りするんですよ。 真:何も考えずにナスを百五十本くらい植えた 取っても取ってもできるから …面白かっ



た。そこから本格的に就農を考え始めました。

が二メートルほどもある雑草で埋まっていた らい、独立して、二〇一九年十月に就農し その後、亀岡の農園で二年間研修させても 真:京都市にある新規就農者向けの相談窓口 ました。ここはもともと耕作放棄地で、丈 へ行き、支援制度を紹介してもらいました。 具体的にどうやって就農されたのですか。



野菜作りは子育てと一緒

のを家族総出で〝開拓〟したんですよ。

気になりやすくなりますから、ある程度放ったらかしにして自分たちの 真:土づくりですね。ただ、肥料をやりすぎると野菜本来の力が弱り、病 といわれます。毎日畑に足を運んで、 力で頑張ってもらわなければなりません。よく、野菜作りは子育てと一緒に おいしい野菜を育てるためにこだわっていることはありますか。 常に見てあげることが大切です。

:雪が降って寒い時、 時など、夫はよく「野菜がかわいそうや」と言います。な 真:ベテランの農家さんや、 長けている人だと思います。僕はまだまだですが、 らいしっかり見ていて。野菜の声が聞こえる、というのか。 んだか、子どもより手を掛けているんじゃないかと思うく カンカン照りで水が足りなくなった 上手に育てる人は、その力に それで

> がこれまでに何度もありましたね。 なってきました。そこで適切な処置を施し、 も色や形などから野菜が発しているものを何となく受け取れるように 病気の蔓延を免れたこと

「おいしい」と言ってもらえる野菜を

育てた野菜はどこで販売しているのですか。

今作っているキャベツはとてもおいしい品種なのですが、病気に弱く できる限りお客さんと近いところにいたいと思っています。 ろば」さんなどの直売所が中心です。大きな販売ルートに乗せるよりも、 真:「ファーマーズマーケットたわわ朝霧」さんや「桂川街道産直ひ

去年はあまり出荷できませんでした。それでもお客さんの受けがとて てもらえる野菜を作りたいと思っています。 を上げるよりは、お客さんに「おいしい」と言っ あまりおいしくないんです。それを作って収穫量 い品種もあるにはあるのですが、品種改良が繰り返されているからか ツないの』って言ってるよ」と声を掛けてくれて。病気にかかりにく も良かったみたいで、直売所の人から「お客さんが『あの人のキャベ

100%の商品を出したいんです。新規就農でノ - ご自身が納得のいくものを売りたいのですね。 お金を払って買ってもらうわけだから、

輩農家さんに聞いています。市役所の農林振興課 や南丹農業改良普及センター、 ウハウもないので、 勉強して、わからなければ先 JAの職員の方に



じます。本当に、頭が上がりません。 うにかして農家として食べられるようになってほしい」という思いを感 よ。僕がいないときでも畑に入って作業してくださることもあって、「ど もたくさん助言をいただいています。よくのぞきに来てくれるんです

一次産業から六次産業まで

挑戦したいことはありますか

を考えて、それに使う野菜を詰めて発送したり、ということができれば。 他にも、野菜をおしゃれにパッケージして販売したり、一週間の献立表 暁:最終的には、 ツや総菜に加工して、家の敷地に設けた小さな建物で販売したいです。 す。「ここをちょっと切り落としたら使えるのに」という野菜をスイ 一次産業から六次産業までやってみたいと思っていま

夢が広がりますね。移住して、ご両親が農業を始めたことについて、 お子さんたちはどうでしたか。

tera-coya農園に通っていたことが農業を好きになったきっかけだっ 農業系の大学に進みます。 を学んでいて、移住が決まった時にはすでに入学が決まっていました。 たのかなと思います。もうすぐ卒業して、来年度からは神奈川県にある 響):僕は今、 南丹市の京都府立農芸高等学校で農業

でそんな田舎に行くねん」って。すごく心配したのですが、今はもうこ 暁:娘も、tera-coya農園の時から嫌がらずに畑仕事を手伝ってくれ ています。ただ当時、 中学に上がる前だった次男は大反対でした。「何

の土地にもなじんで、高校も長男と同じ農芸 高校に進みました。農業というよりは、土木 系志望のようですが。

響:土を耕すための環境作りというか

響くんは大学卒業後、お父さんの跡を継ぐのですか。 農園を運営するメンバーが揃いつつある、ということでしょうか。

響:帰ってこようとは思っているのですが、それからどうするかはま

お父さんとは別でやりたい?

真:いや、 お父さん゛が゛、別でやりたい

があふれていました。 家族みんなで農園を創り上げていこうと奮闘する、温かなエネルギー 白石一家。「おいしい野菜を作りたい」という真也さんの想いを中心に、 気軽に始めた週末農園をきっかけとして、野菜作りの魅力に目覚めた

生活のため、この日は欠席白石一家。左から、暁子さん、真也さん、凛々子ちゃん、響くん。次男の瑛樹くんは寮

2「tera-coya農園」を立ち上げた頃に作った刺繍入りのつなぎ

3 ビニールが外れパイプだけになっていたハウスを真也さんが直した

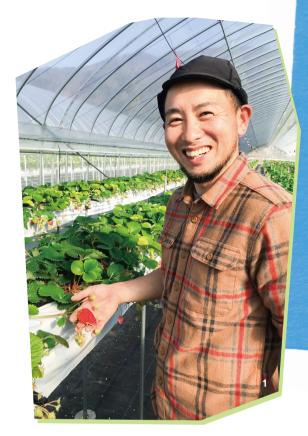
4 試行錯誤の末、確実な発芽方法を取得し、育苗中のブロッコリーの赤ちゃん

5 春キャベツの柔らかな葉は、甘味があっておいしい

6 自慢の春キャベツを抱える真也さん

宮前意園

宫山則 谷大さん



池上真紀

ばでの就農。

に移住し、旭町でイチゴ農家となって二年目となる宮前農園の宮前さ

滋賀県での三年間の修業期間を経て、二〇一九年、

ん。この先の夢は、地元亀岡を面白い場所にすること。今どんなこと

を考えておられるのか、お話を伺いました。

ていた二十代。いつしか自然の中で仕事をしてみたくなって三十代半

地元密着型のイチゴ農家やってます

- どうしてイチゴ農家になろうと思われたのですか?

をするなら、果樹をやりたかったので、 れたんですよ。それで農業の修業をするために、農家の求人を探して それで家族に話したら、「いいよ、好きなことやったら」と賛成してく 方が絶対に面白いって思ったんです。 いたときに「農業やったらいいんじゃないか」と思いついたんです。 いたところ、募集をしていたのが滋賀県のイチゴだったんです。農業 もともと観葉植物が好きで、 自然の中で仕事をしたいなぁと考えて イチゴを作ろう。フルーツの

と「紅ほっペ」なんですけど、研修先の滋賀 今、僕が作っているイチゴの品種は、「章姫」 京都市内出身である宮前さんが、移住先と して亀岡市を選んだ理由は何ですか?

県がイチゴ農家を推奨しているので。なの 県は、イチゴ農家がいっぱいいるんですよ。 業界としてはすごく飽和状態だし、 競



週末サーフィンや自転車・山登り、 好きな音楽や服を扱うアパレル関係の仕事をし、プライベートでは、毎 トレイルランニングをする生活をし

皆の面白い場所にしていきます!

地元亀岡を

争が激しいのと、京都府産のイチゴが作りたいなと思ったんです。

イチゴを作る環境としてはどのような感じでしょうか?

の影響のせいか、年々稲作の時期もずれていっているし、昔に比べたら は、こういった環境によるところが大きいのかもしれませんが、温暖化 日照時間を補うなど、その環境に合わせたいろいろな工夫を常に試行錯 実はこの霧がイチゴには最悪で(笑)イチゴは日焼けして赤くなるので、 てられる環境になってきているのかなと思いますね。日本で一番日照時 日光がとても大事なんです。なので、ビニールハウス内に電球をつけて ンジしてみようという思いで始めました。亀岡は霧が有名ですけれど、 模索しながらやっています。もともと亀岡にイチゴ農家が少ないの 頻度も少なくなっていると聞いたりもするので、イチゴが育 施設栽培もなく、イチゴ農家が本当に少ないので、チャレ



間が少ないのは鳥取といわれていますけど、 その鳥取とか、例えば、極寒の北海道でも ます。 イチゴの栽培をされているので、ここ亀岡 でもおいしいイチゴができると思ってい

の人気ですね。 の里あさひ」さんでも、 ウス前での直売には朝早くから行列ができていたり、最寄りの「なごみ すぐに完売になるなど二年目とは思えないほど 宮前さんのイチゴは、このビニールハ

がたいですね。このあたりは野菜をたくさん作っておられるので、 地域の方たちが、うちのイチゴを紹介してくださるので、本当にあり この

> うとあと一つ二つ増やして、 るようになるには、ハウスの面積でい 地域にないものを作って、地元の人た す。イチゴ農家としてご飯が食べられ ちに食べていただきたいと思っていま

宮前晨園 ②

てもらっているのが嬉しいですよね。 とか、地元の方々が声をかけてきてくださるので、信頼とか期待をし やしていけたらと思っていますが、ハウスのことも、「いつ増やすんや」 らいを雇うぐらいの規模が必要といわれているので、もうちょっと増

ますか?」みたいなメッセージが来て、「いけますよ! 取りに来てく どで僕が直接オーダーを受けています。「明日(イチゴ)どう? いけ 取引をメインにしたいと思っています。 に考えていますし、かつ、地元密着型で、なるべく亀岡界隈の方との どもみたいなイチゴを大事にしてくれるところとのお付き合いを一番 引先であっても、人と人との付き合いをしたいので、自分の作った子 ださいね」そんなやり取りで取引させていただいています。どんな取 イチゴの卸先とは気軽に声をかけてほしいこともあって、 LINEな

和菓子職人の父と共同で加工品作りに挑戦

イチゴの収穫期以外はどのようにされているのですか。

うとなると、収入がない時期に何かほかの作物を作っていく必要があ るなと思うので、 稼ぎます。今のように一人でやるにはそれでいいんですけど、人を雇 イチゴ農家としては、 イチジクなどの果樹を考えています。あと、 十二月~六月までの半年間で一年間の収入を

ナは夢ですけどね。 んか(笑)。バナナも内陸地でできるような品種もあるので。 にはバナナを作ってみたいです。京都産のバナナって食べたくなりませ まぁバナ

今年中にできたらいいなと思っています。父も一緒に商品作りができる ありますし、僕も結構こだわりがあるほうなので、なかなか大変ですが、 うこともあって準備しているところです。職人なので、父もこだわりが は、父が和菓子職人で超一級の腕前なので、一緒にできたらいいなとい のは喜んでいますね。 られているところが多いので、それとは違うものを企画しています。実 イチゴ大福がありますが、イチゴ大福などは、イチゴの卸先のお店が作 で、和菓子の加工品を試作しています。イチゴを使った和菓子というと あとは、六次産業化としての加工品作りですね。僕が和菓子好きなの

「ここおもろいねん!」って言わせたい

グループを作って活動されていると伺 そのほかにも、 いました。 地元の若手の人たちと

すけど、個人農家としては、一番若いほう 齢化が進んでいて、平均年齢が七十歳代と の地域を盛り上げていくことをやりたいな になります。そういった若手で、亀岡やこ かになるんです。僕は、三十 、ープを立ち上げました。この地域は、高 「KYU」という川東若手組合というグ 九歳になりま



だこの地域に来て二年目なので。全然この地域のことを知らないからこ そできることってあるじゃないですか(笑)。なので、だからこそ面白 ろいねん!」っていう感じができればいいかなと思っています。僕はま くんですよね。「ここには何もない」って。そうじゃなくて、「ここおも と思っています。どうしても、大人になると地元を離れる人が増えてい いことをやっていこうかなと思っています。

じのものがしたいです。好きな音楽を聞きながら、ゆっくりまったりし くりなどをしてみたいです。そこに、個人的には、やる気のないゆる~ えば、自転車されている方や、アウトドアの方が来られるフィールドづ ばぐらいの時に、アウトドアにはまっていて、その経験を生かして、例 拓して、山にかかわることをしたいなぁと思っています。僕が二十代半 い感じの喫茶店とかやりたいですね(笑)。昔のジャズ喫茶みたいな感 この地域は見ての通り自然がとっても多いので、このあたりの山を開 「面白いこと」とは、どんなことをやってみようとお考えですか?

か新しいものを一緒に作っていけたらと思っています。 最近、移住されてくる方も多いですし、皆さんのやりたいことから何 ていただける場所があるのもいいなと思っています。

(ストーリーにて、宮前農園の毎日の出荷情報をチェックできませ宮前農園:https://www.instagram.com/miyamae_nouen/

とても気さくにお話してくださった宮前さん。笑顔が素敵!

5「面白いと思って作ってます」といる 宮前農園のビニールハウスの前で3 ハウス内はとてもデリケートに管理2 子どもみたいに大事なイチゴたち に管理されているため、部外者は立ち入り禁止